M/S Marat マラー Sade サド 10/2

イタリアのアルテ・エ・サルーテ劇団と
日本の精神障害当事者・医療福祉従事者の
コラボレーションによる映像と生の演技が交差する
インタラクティブ演劇公演日本ツアー

名古屋公演

日時　2022年10月2日(日)
開演　14:00 (開場 13:30)
会場　なごのキャンバス 体育館
(名古屋市西区那古野2-14-1)

演劇上演　1時間15分(バリアフリー字幕)
＋アフタートーク付き(日伊通訳、手話付き)
海外の精神科医療施設へオンライン配信

⧄無料⧄全席自由⧄要申し込み⧄

後援(名古屋公演)
社会福祉法人中日新聞社会事業団

お問合せ
アルテ・エ・サルーテ実行委員会事務局
TEL:03 - 5879 - 4970
Mail:2020@soteria.jp

←お申込み・最新情報　soteria.jp/a/5451

文化庁　Istituto Italiano di Cultura　SERVIZIO SANITARIO REGIONALE EMILIA-ROMAGNA　ERT EMILIA ROMAGNA TEATRO FONDAZIONE　Arte e Salute　TS

Marat マラー / サド Sade

東京を拠点に精神障害者の地域生活を支援する特定非営利法人東京ソテリアは、
「精神病院のない国」イタリア、ボローニャにて、精神障害当事者がプロフェッショナルの俳優として活動しているアルテ・エ・サルーテ劇団を
2018年に日本へ招聘し、演劇作品『マラー/サド』公演を行いました。
鉄格子に囲まれた精神病院を舞台に排除や抑圧からの自由、革命、解放をテーマにしたこの作品は、大きな反響を呼びました。
2019年からは、アルテ・エ・サルーテ劇団と日本の精神障害当事者・医療福祉従事者のコラボレーションを目的に
日本各地で、演劇稽古を開始し、10月10日世界精神保健デーの時期には、毎年、趣向を凝らしながら、
『マラー/サド』の上映、パフォーマンス、また、バリアフリー字幕、多言語映像を使用し、世界各地への配信も行なってきました。
今年度の企画では、実際にボローニャの地で、アルテ・エ・サルーテ劇団と稽古を行なった
日本の精神障害当事者・医療福祉従事者達の舞台上での生の演技と映像を混合させ、日伊共同による『マラー/サド』を上演致します。
また、このイベントを海外の精神科医療施設へオンライン配信し、精神保健のための演劇を世界へ広げていきます。

“障害はあるけど奴隷じゃない。ここにいるかぎり、もう奴隷ではない。”

Marat/Sade マラー/サド

『マルキ・ド・サドの演出のもとにシャラントン精神病院患者たちによって演じられたジャン=ポール・マラーの迫害と暗殺』
原作は、ペーター・ヴァイス。1964年にベルリンにて初演。全体が劇中劇のかたちで提示される実験的な作品であり、
フランス革命期の過激な共和主義者ジャン=ポール・マラーが浴槽でシャルロット・コルデーに刺殺された出来事を
シャラントン精神病院にて、自身入院患者であったマルキ・ド・サド侯爵が患者たちを使って上演している、という設定になっている。
アルテ・エ・サルーテ劇団のナンニ・ガレッラ監督の脚色による『マラー/サド』は、この原作のストリーを保持しながらも、
精神病院の入院患者達を精神障害当事者である劇団の俳優達に演じさせることにより、
精神障害や社会からの解放、それらに向かう革命、自由を現代社会に問う作品に作り上げている。
人間の苦悩、悲しみ、優しさ、希望、自由や革命を歌う歌曲が数多く作品の中に登場する。
イタリア、中国、スペイン、日本にて上演され、高い評価を得ている。

“芸術への政治的、文化的な取り組みの必要性、現代社会の崩壊がもたらした空洞を埋める必要性。
アルテ・エ・サルーテはそこから誕生し、存在している。”

ナンニ・ガレッラ(アルテ・エ・サルーテ劇団監督)

“演劇が心の健康にもたらす大きな価値を証明し、心の病を持つ人々に対するスティグマや差別と戦っていく。”

アンジェロ・フィオリッティ(精神科医、イタリア精神保健局会代表)

“演劇、それは、宝の山を積んだまま難破した海賊船。
そして、海底へと沈んでいった人々の叫び。自分の心の宝の山を目指して。演劇、僕にとっては未知数だ。”

大嶋隆弘(演者)

ご来場の皆さまへのお願い

会場内でのマスク着用など、感染予防対策へのご協力をお願い致します。
新型コロナウィルスの感染拡大の状況によっては、ご来場をお断りすることがございますので、ご了承ください。